

令和 2 年 4 月 24 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13597

研究課題名(和文) 関係的平等論と差別の規範理論の統合

研究課題名(英文) The Integration of Relational Egalitarianism and Normative Theories of Discrimination

研究代表者

森 悠一郎 (MORI, Yuichiro)

北海道大学・法学研究科・准教授

研究者番号：60707488

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は「平等」理念を巡る法哲学と実定法学との対話の共通基盤を構築するべく、関係的平等論の理論的發展を通じて平等論と差別論との規範的統合作業を試みることである。

本研究は次の二つの基本課題に取り組むことを通じてこの研究目的を遂行した。第一に、「『差別』とは何か?」という問題についての論点整理をし、「なぜ差別をしてはいけないのか?」という問題における特定の立場との理論的な対応関係を提示した。第二に、関係的平等論が「なぜ差別をしてはいけないのか?」という問題におけるどの立場を最も支持し得るかについて考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内外において平等論との規範的統合を試みる差別の規範理論はこれまでほとんどなかったため、本研究の試みは高度の独創性・先進性を持つ。本邦の憲法学説でも法の下の平等の本質をめぐって立場の対立があるところ、「差別とは何か?」「なぜ差別をしてはいけないのか?」という問題への一定の回答を与える本研究の成果はかかる憲法14条解釈の指針としても示唆を与え得る。また米国の憲法判例を通じて形成された違憲審査基準論では人種・性別等を特に疑わしき分類として厳格な審査基準を求めるが、本研究で明らかにした差別の規範理論はそうした違憲審査基準の評価指針を提供するという意義も持つ。

研究成果の概要(英文)：The goal of this research is to integrate a normative theory of equality with that of discrimination through the development of a theory of relational equality, with the aim of constructing the shared basis of communication between legal philosophers and positive lawyers over the ideal of equality.

To pursue this goal, I grappled with the following two basic tasks. First, I summarized the various arguments over "What is discrimination?" and showed that some positions regarding these issues could be explained by their particular commitment to theories about "Why ought we not to engage in discrimination?" Second, I examined the question of which theory of the moral wrongness of discrimination my theory of relational equality would endorse the most.

研究分野：社会科学

キーワード：基礎法学 法哲学・法理学 差別 平等 関係的平等論

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1971年にジョン・ロールズにより『正義論 (A Theory of Justice)』が世に出されて以降、アマルティア・センによる「何の平等か？」及びロナルド・ドゥオーキンによる「厚生上の平等か？資源上の平等か？」という問題設定を経て現代正義論における平等の構想を巡る議論は洗練を極めてきた。

もっともこのようなロールズに端を発する主流派の平等論に対しては、財の事後的再分配のみに終始し、そのような不公正な分配状態を生成している背後の制度・構造の不正義を看過しているというアイリス・ヤングによる「分配的正義」批判や、財の再分配のみに関心を集中しているゆえにノーマルな支配的集団の生活様式を体現した意味秩序によって少数者がスティグマ化されているという「誤承認の不正義」に対応できないというナンシー・フレイザーによる批判がなされていた。

ヤングやフレイザーによる批判を摂取し、エリザベス・アンダーソンは主流派の平等論を、「平等」の問題を財の「格差」の有無で同定する「分配的平等論 (distributive egalitarianism)」として特徴付け、それに代わる自らのオルタナティブとして、「平等」の問題を「抑圧関係」「非対称的な相互行為」の有無で同定する「**関係的平等論 (relational egalitarianism)**」を擁護しており (Elizabeth Anderson, "What Is the Point of Equality?," in *Ethics*, Vol. 109, No. 2, 1999)。今日の英米圏における平等論では「運の平等論 (luck egalitarianism)」を含む分配的平等論と、アンダーソンを初めとする関係的平等論とが互いに対抗軸を形成している。

関係的平等論の重要な洞察の一つは財の分配格差では必ずしも捉えられないようなスティグマなどの誤承認の問題への着目であり、本研究代表者自身もそのような問題意識から、そうした関係的平等論の具体的構想の彫琢を研究課題として試みてきた (野村財団社会科学助成「現代正義論における関係的平等主義理論の考察」(平成26年度)、村田学術振興財団研究助成「現代正義論における民主的平等論の法哲学的再検討とその世界正義への規範的含意」(平成28年度))。その成果として、既存の分配的平等論の意義・限界につき誤承認の不正義との関連で内在的検討を施した論文を学術雑誌に掲載しており (「承認・スティグマ・「独立性の原理」 ドゥオーキンの資源平等論は誤承認の不正義を克服しているか」『相関社会科学』第25号(2016年)、「高価な嗜好・社会主義・共同体 G. A. コーエンの運の平等主義の再検討」『法と哲学』第2号(2016年))、本研究代表者自身の積極的に擁護する関係的平等論の全容については自己が所属する東京大学法学部政治学研究所に2016年2月末に提出した助教論文で展開し、それに若干の加筆・修正を施したものを紀要に連載した (「関係の対等性と正義 平等主義的リベラリズムの再定位(一)~(四・完)」『法学協会雑誌』第133巻第8~11号(2016年))。

関係的平等論のもう一つの重要な洞察として、それが(非対称的な関係性に着目することを通じて)「**差別**」という形態での相互行為の問題にも「平等」の問題として着目できる点が挙げられる。既述のように英米圏の主流派の平等論が分配的平等論のパラダイムを共有していたことから、「あるべき法」の規範的指針をこうした英米圏の現代正義論に求める法哲学において「平等」の問題は第一義的に格差なき分配状態の達成に存していた。それに対して差別禁止の問題は、「法の下での平等」に第一義的に着目する憲法学を初めとする実体法学でしばしば議論されていた。そしてこのような法哲学・実体法学間での「平等」概念で念頭に置いているもののすれ違いゆえに、方や法哲学の文脈で分配的平等論を参照しても、それが法的差別の問題にどう利いてくるのか、望ましい財の配分状態をもたらすための法的に異なる取扱いであれば常に許されるのか？許されないとしたらいかなる規範的考慮が利いてくるのか？が判然としないと同時に、もう一方で憲法学における「**実質**」的平等の内実(いかなる論争的な正義構想に依拠するのか？)も必ずしも明確化されておらず、両学問領域間で互いの知見から学び合うための対話の共通基盤が十全に見出されていない状況にあった。

2. 研究の目的

上の「研究開始当初の背景」で記したような状況下において、法哲学と憲法学を始めとする実定法学との対話のための共通基盤を構築するべく、関係的平等論の理論的發展を通じて平等論と差別論とを規範的に統合することに、本研究の目的は存した。

3. 研究の方法

本研究は次の課題を遂行した。

差別の規範理論の内在的検討

差別の規範理論においては、(1)差別概念の問題(「差別」とは何か)、(2)差別の反道徳性の根拠の問題(なぜ差別をしてはいけないのか?)という二つの問題設定がなされている。(1)における具体的な論点として、不利益的取扱いが「社会的顕著集団 (socially salient group)」に基づく場合にのみ差別概念を限定すべきかという分析的なものに加え、より実践的な論点として、「**間接差別 (indirect discrimination)**」や「**構造的差別 (structural discrimination)**」がいかなる意味で「差別」たり得るか、被抑圧集団とはみなされない集団構成員が被る「**逆差別 (reverse discrimination)**」は「差別」なのかというものがある。(1)と(2)の問いは区別されるものの各々の問いへの答えは密接に関連しており、(1)における諸論点への回答の相違は(2)における特定の立場の採用に依存している。

本研究では英米圏の差別論の研究蓄積を渉猟することを通じて(1)の問題領域における論点

整理をし、論点ごとの諸議論の成否を内在的に検討した。また(2)における特定の立場が(1)における諸論点においてどの立場を採ることと親和的であるのかについての理論的な対応関係を提示した。

関係的平等論との規範的統合

課題(2)における特定の立場へのコミットメントは、いかなる正義構想を擁護するかに依存する。本研究では課題で提示した差別の規範理論における理論的な対応関係を元に、私が擁護した正義構想としての関係的平等論が(2)におけるどの立場を最も支持し得るかについては(1)の諸論点でいかなる立場を採ることになるのかについて考察した。

4. 研究成果

本研究では以下の二つの課題を設定し、それぞれの課題において下記に記すような成果を得た。

差別の規範理論の内在的検討

まず予備的作業として英米圏の規範理論における関係的平等論の理論的発展に関する議論状況を確認するため、平等論の関連文献の精読を通じてその最新の研究動向の把握及び知見の撰取に努めた。その上でこのような関係的平等論の理論的発展状況及びその課題についての試論的論文を作成してIVRリスボン世界大会で報告をするとともに、フロアとの討議及び海外の研究者との意見交換を行った(2017年7月20日)。

予備的作業ののちに課題に着手した。「『差別』とは何か?」に関わる差別概念論の領域では、差別の基礎を社会的顕著集団や社会的不利集団に限定すべきか否か、差別の「不合理」性ないし「恣意」性をどう解釈すべきか、「間接差別」や「構造的差別」はそもそも「差別」なのか、「差別」だとしたらいかなる意味で「差別」と言えるのか、白人や男性などの社会的有利集団とされる人々に対する不利益取扱い(「逆差別」)は「差別」に当たるのか、当たるとして社会的不利集団への「差別」とその反道徳性においてどの点で共通し、どの点で異なり得るのかといった具体的論点が存在するが、関連文献の精読を通じてそれらの論点を整理し、論点ごとの諸議論の成否を内在的に検討するとともに、各立場の暗黙の価値前提を抽出することを試みた。

差別概念論の領域での論点整理と諸議論の内在的検討ののちに、差別の反道徳性の根拠論の諸立場の内在的理解を試みた。その上で、差別の反道徳性の根拠論での特定の立場が差別概念論における諸論点でどの立場を採ることと親和的であるのかについての理論的な対応関係を提示した。そのような対応関係についての暫定案の一部をIVR Japan国際会議の場で報告するとともに(2018年7月8日)、討議及び意見交換を通じて得られた知見をフィードバックして、自説の補強・改定を試みた成果を所属研究機関の紀要『立教法学』に投稿した(「統計的差別と個人の尊重」『立教法学』第100号(2019年))。

関係的平等論との規範的統合

上の課題で提示した理論的な対応関係を元に、私が擁護した正義構想としての関係的平等論が差別の反道徳性の根拠論におけるどの立場を最も支持し得るかを考察し、暫定的な結論を提示した。このような差別論と平等論との規範的統合についての暫定仮説を補充して私の関係的平等論の包括的研究である「関係の対等性と正義——平等主義的リベラリズムの再定位(一)~(四・完)」(『法学協会雑誌』第133巻第8~11号(2016年))を抜本的に改定したものを、『関係の対等性と平等』という標題で、本年度2月に単著として刊行した。同単著の合評会をそれぞれ相関社会科学研究会(2019年6月1日)と東京法哲学研究会(2019年7月27日)で開催した。また北海道大学法学会での研究会(法理論研究会と政治研究会との共催)において、同単著の内容および現代平等論における最前線の課題についての報告を行った(2019年12月19日)。

差別論と平等論の統合仮説そのものの補正作業も行った。最終年度にIVRルツェルン世界大会に出張し、統計的差別について個人としての尊重の観点から考察する内容の報告をし(2019年7月8日)、そこでの討議や意見交換で得た知見を補正作業に反映させた。

さらに、次なる研究課題の発展方向を模索する意味で、本研究の知見が憲法学の法の下での平等解釈や、主として私人による差別行為を対象とする差別禁止法への規範的含意についての論点抽出作業を行った。こうした作業に当たっては関連文献の精読に加え、本研究者が所属する北海道大学の公法研究会や法理論研究会に出席して異分野の法学研究者との意見交換を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森悠一郎	4. 巻 38
2. 論文標題 ソフィア・モローの熟慮的自由説の批判的検討 なぜ差別をしてはいけないのかをめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 法の理論	6. 最初と最後の頁 105-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 森悠一郎	4. 巻 29
2. 論文標題 著者によるリプライ 宮本・石田・阿部論文に対して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 関連社会科学	6. 最初と最後の頁 107-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/00079124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 森悠一郎	4. 巻 100
2. 論文標題 統計的差別と個人の尊重	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立教法学	6. 最初と最後の頁 186-215
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 森悠一郎	4. 巻 2016
2. 論文標題 運の平等・遺族年金・現状の固定化 ジョン・ローマーの「機会の平等」論の再検討と平等論のオルタナティブ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 法哲学年報	6. 最初と最後の頁 191-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森悠一郎	4. 巻 27
2. 論文標題 宇宙的価値・格差の不在・反アドホック多元主義 井上彰の平等主義的正義論の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 相關社会科学	6. 最初と最後の頁 75-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00074424	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計4件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Mori, Yuichiro
2. 発表標題 Statistical Discrimination and Treatment as an Individual
3. 学会等名 29th World Congress of the International Association of Law and Social Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mori, Yuichiro
2. 発表標題 Statistical Discrimination and Treatment as an Individual
3. 学会等名 2018 IVR Japan International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mori, Yuichiro
2. 発表標題 Democratic Equality and Global Justice
3. 学会等名 28th World Congress of the International Association of Law and Social Philosophy (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森悠一郎
2. 発表標題 運の平等・遺族年金・現状の固定化 ジョン・ローマーの「機会の平等」論の再検討と平等論のオルタナティブ
3. 学会等名 日本法哲学会2017年度学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 森悠一郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 弘文堂	5. 総ページ数 346
3. 書名 関係の対等性と平等	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap https://researchmap.jp/yuichiro_mori/ 北海道大学研究者総覧 https://researchers.general.hokudai.ac.jp/profile/ja.c019bb00d113a1b5520e17560c007669.html

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----